

American Soybean Association- IM JAPAN Newsletter for Food Industry アメリカ大豆協会 ニュースレター Issue 46 : WINTER 2008

お知らせ

- ASA-IM は先月 13 日(木)に、日本の大豆関連業界の皆様へ新穀アメリカ大豆の品質・生産状況をお知らせするためのコンファレンスを開催しました。約 350 名近い業界関係者の方々にご参加いただきまして、ありがとうございます。また、展示スペース、工場見学にご協力いただきました企業の皆様には厚く御礼申し上げます。
- ASA-IM Japan は日本最大の食のネットワーク会社である株式会社ぐるなび(代表取締役社長 久保 征一郎)とのタイアップで大豆のメニューフェア第 2 弾を 2009 年 2 月半ばから 1 ヶ月間、開催します。
詳細はぐるなびPRからアクセス可能です ⇒ <http://pp.gnavi.co.jp/asaimjapan/>
- 2 月は節分/豆撒き、全国納豆協同組合連合会が主催する納豆の鑑評会、3 月は豆腐フェア etc と大豆関連イベントが続きますが、大豆食品の消費拡大のための積極的プロモーションによって「ASA-IM X ぐるなびとの大豆食品プロモーション」とのシナジー効果を願います・・・！ ちなみに、アメリカではSANA (Soyfoods Association of North America = 北米大豆食品協会) が毎年 4 月を「大豆食品の月= Month of Soyfoods」としており、今年はメンバー企業である大豆食品企業や小売店が大豆製品のクーポン券や大豆に関するパンフレットの配布を行います。詳細はSANAのウェブページにて ⇒ <http://www.soyfoods.org/news/soyfoods-month-2009/>
- SNIJ は大豆の健康機能性に関する第 3 回学術集会を慶應義塾大学医学部(新宿区)にて開催いたします。
日時: 2009 年 1 月 31 日(土) 問い合わせ先 メールアドレス: info@snij.jp HP: <http://www.snij.jp/xoops/>

◎ 成長を続ける世界の大豆食品マーケット ◎

Global Soyfoods Market Growth - The Soy Export Weekly Update -

「大豆食品: 世界戦略ビジネスレポート」と題された新規調査 (グローバル・インダストリー・アナリスト社)によると、大豆食品は風味の向上と新製品の革新によりここ数年で小規模な自然食店に置かれるものから主流食品に変わってきているようだ。その人気の主な要因は、健康促進作用や病気予防効果だ。高齢者の増加が大豆食品市場の成長を支える原動力となっているのだ。高齢化は大豆製品の商業実用化にも影響し、主として35歳から54歳に見られる心臓病などの重大疾患に対する関心の高まりを表している。さらに大豆タンパクは肉類の代替食品として高齢者の大豆製品消費を促進している。

世界の大豆食品市場では推定販売高が102億ドルに上るアジア・太平洋圏が圧倒的な存在となっている。北米と欧州が世界の大豆食品販売のほぼ49%を占めている。米国の大豆市場は全体で2010年には44億ドルに達すると予想されている (グローバル・インダストリー・アナリスト社)。

直接食品へと加工される丸大豆は、長年大豆が日常食生活の一部となっているアジア諸国で健全な成長率を示している。また、従来は主として大豆タンパク製品や大豆食品のような粉砕した形で大豆を消費してきた欧米諸国でも直接食品へと加工される丸大豆を受け入れる傾向が広がっている。アジア・太平洋圏の大豆油市場は2001-2010年の間に7.4%の複合年間成長率を示すと予想される。

この調査によれば、大豆の人気の高まり大豆製品の数が増えるに伴い、大豆市場では多くの著しい変化が起こっている。人気商品には大豆を使用した「乳製品」、大豆チップス、大豆ナッツなどのスナックや大豆タンパク・バー食品がある。大豆スナックの人気上昇は消費者がヘルシーでかつ便利なスナックを求めていることに起因している。さらにこの調査レポートは企業が女性の健康に対応する大豆食品にますます注力していることも明らかにしている。数社の大豆サプリメント・メーカーは大豆たんぱくが豊富な食品として売り出された朝食用シリアルや(エナジー)バーを含む独自製品を発表している。さらに欧米諸国ではほとんどの女性の消費傾向が変化したことも大豆食品需要を押し上げる要因になっている。

以上のレポートから、世界における大豆食品市場の将来性が明確化になっている。日本はアメリカにとって世界最大の食品大豆市場であり、重要な高付加価値市場。日本の大豆食品業界へのリーダーシップの期待は大きい。

WISH EVERYONE A MERRY CHRISTMAS
& A HAPPY NEW YEAR!

ASA-IM JAPAN 発行
HP: <http://www.asaimjapan.org/>
Food Soybean: Masako Masi Tateishi
食品担当: 立石雅子
E-mail: mailto:tateishi-asaimjp@gol.com

